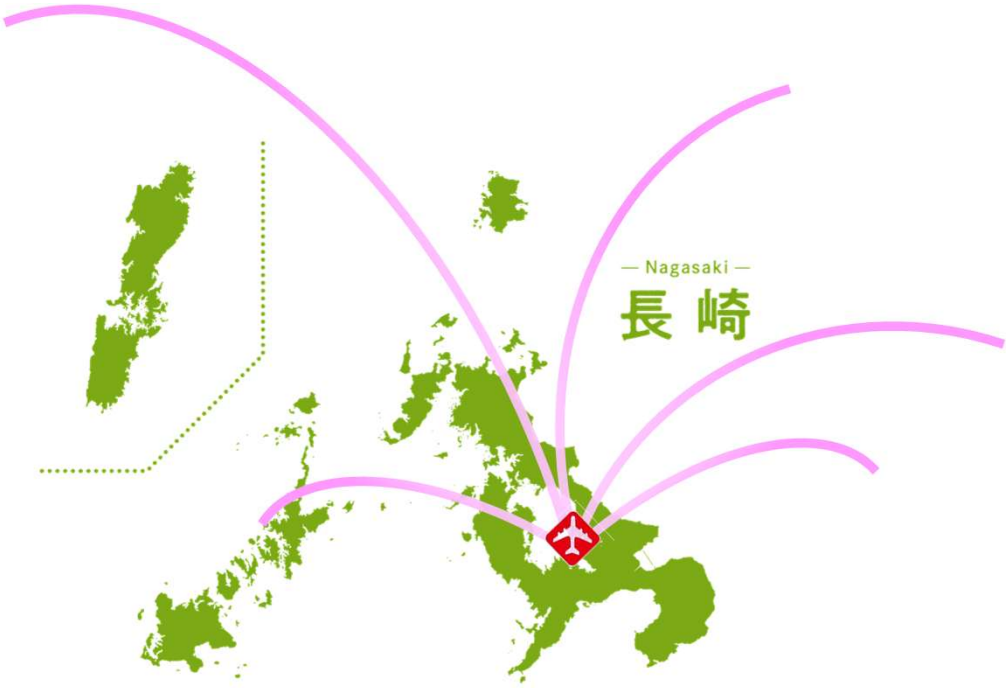
航空貨物分野における
官民連携プラットフォーム

第４回　会議資料

◆日時
2026年10月14日(水)
15:00～16:30

◆場所
長崎国際航空貨物ターミナル(株)
会議室



航空貨物分野における官民連携プラットフォーム　事務局

目次

１．開会

２．前回の振り返り

３．講演　「北九州空港の物流拠点化について」
～開港20周年を迎えた、現在地と今後の展望～

北九州市 港湾空港局 空港企画部空港企画課長　今村 優 氏

＊終了後に質疑応答を予定しています

４．次回会議について

５．閉会

前回の振り返り

第３回会議では、各業界（荷主・フォワーダー・エアライン）へのヒアリング結果をもとに、
航空貨物利用に関する**課題を整理**し、**今後重点的に検討すべきテーマについて意見交換**を行いました
また、県農産加工流通課さまより、今後推進される**「農産物輸出産業クラスター推進事業」**についてご説明をいただきました

①ヒアリング結果の共有

荷主・フォワーダー・航空会社への
ヒアリング結果を基に、航空利用に関する
課題を整理しました

ヒアリングの対象

- **荷主**（農産物・水産物・製造）
- **フォワーダー**
- **航空会社**

②業界横断的な共通課題を整理

各業界からの意見を踏まえ、
業界横断的な共通課題を整理しました

主な共通課題（例）

路線・便数（ﾈｯﾄﾜｰｸの不足等）	**コスト**（運賃・採算面）
貨物量・需要（安定的な貨物量の確保等）	**情報共有・連携**（関係者間の情報連携等）
物流体制（人手不足・2024問題）	**その他**（制度・ｲﾝﾌﾗ等）

③今後重点的に検討すべきテーマ

第３回での意見を踏まえ
今後重点的に検討すべきテーマを整理しました

- **需要の創出**（新たな貨物・市場の開拓等）
- **コスト競争力の強化**（ｺｽﾄの低減策・利用しやすい環境づくり等）
- **航空ネットワークの活用・拡充**（路線拡充・既存路線や便の更なる活用等）
- **物流体制の強化**（物流ｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝの強化等）
- **情報共有・連携強化**（関係者の連携強化・ﾏｯﾁﾝｸﾞの促進等）
- **公的支援制度の活用**（官民の連携体制構築等）

➡ 第３回以降の流れ

- **第４回（今回）** 先進事例から知見・ヒントを得る
- **第５回** 施策の方向性を検討する
- **第６回** 中間とりまとめ
- **具体的施策の検討・実施**

Daily Cargo（2026年9月18日付）



Cargo 2026年9月18日（金） 第三種郵便物認可

空の日特集2026

国際線受け入れ体制強化
グラハン生産性向上など課題に

成田国際空港や関西国際空港、中部国際空港などで滑走路新設や貨物地区の改修などの大規模プロジェクトが進められている。羽田空港でも旅客ターミナルビルの接続などの事業が計画されている。こうした国際拠点空港以外の日本各地の空港でも、国際線受け入れ体制の整備・強化、グランドハンドリングなどの生産性向上の重要性が高まっている。日本各地の空港における取り組みをアンケート取材を交えながらレポートする。

北九州空港では滑走路の延伸（2500メートルの3000メートル化）の供用開始が2027年8月末に予定されている。国際貨物便の運航実績が豊富な北九州空港において、滑走路延伸によって長距離国際貨物便の乗り入れのさらなる増加に期待が寄せられる。熊本空港では25年5月に新たな国際航空貨物上屋の供用が開始された。

国際貨物チャーター便需要の受け入れ事例も目立っている。新千歳空港や北九州空港では、半導体製造装置関連貨物のチャーター便に万全の体制で対応。改めて物流機能としての日本各地の空港の役割が注目された。

混雑空港に指定されている福岡空港では、25年3月20日に第2滑走路の供用が開始され、それまで38回だった1時間あたりの発着回数が40回に拡大した。環境アセス「評価書」では、将来的に1時間あたり45回の処理能力も想定していた。25年11月11日に開催された第1回福岡空港機能向上等検討委員会（事務局・九州経済連合会、福岡国際空港会社）で、1時間当たり45回の早期実現に向けた技術的検討の要請を受けたことを踏まえて、国交省として有識者による検討委員会を設置することとした。

インバウンド需要の拡大などを受けて、グランドハンドリングをはじめとする空港業務・運営の効率化が大きな課題だ。国土交通省は空港DXなどをテーマにしたセミナーで「労働集約型のグランドハンドリング業務の生産性向上と、（夏場の暑さなど）厳しい環境下での業務の合理化による担い手の確保という観点からも、空港DX技術の実装を本格化させることが重要になる」「機械化できるところは徹底的に機械化し、人にしかできないような高度な作業に人が集中するといった工夫が重要だ」と指摘した。

競合する事業者が連携して取り組むべき課題も多い。日本航空と全日本空輸が26年冬季スケジュールで実施する羽田一岡山線でのダイヤ調整は、需要時間帯に集中していた発着便に一定の間隔を持たせることで、乗客の選択肢の拡大、利便性向上につなげる取り組みだ。運航が一定程度、分散することで、グランドハンドリングの作業時間帯の集中といった課題の解決策となる可能性もある。

トピックス①

貨物需要開拓へ協力体制整備
長崎空港

長崎空港における航空貨物需要開拓に向けた取り組みが開始された。4月24日に「航空貨物分野における官民連携プラットフォーム」（事務局＝長崎空港ビルディング、長崎国際航空貨物ターミナル）が発足した。荷主やフォワーダー、運送事業者、航空会社、経済団体、行政（オブザーバー）、空港関係者が多角的な視点から、協力体制を確立。航空貨物の利用促進に向けた実効性のある施策の検討・実行を推進する。

長崎空港では、かつては鮮魚や造船関連部品などの輸送が行われていたが、現在は輸出貨物を中心に取り扱いが減少している。輸出貨物の取り扱いに向けた環境整備をはじめ、地域経済を支える航空物流機能を確保・充実させるために関係者が一体となって施策を検討。「貨物量」「輸送能力」といった観点のもとで、短期・中長期の拡大策・目標を設定して実行する。

九州には半導体製造装置関連産業の進出も進んでいるほか、長崎空港は、これまでにも生鮮貨物をはじめ輸出実績がある。事業機会をつかむための具体策、連携のあり方などを検証する。9月11日には第3回会合が開催された。

長崎空港は国管理空港で、滑走路は3000メートル。開港は1975年で世界初の海上空港。航空貨物ターミナルを運営する長崎国際航空貨物ターミナルはNIACTの愛称で知られる。事務所や保税装置場、荷捌き施設の管理・賃貸、国際・国内航空貨物の荷役・保管などを手掛けている。貨物地区の総敷地面積は1万8513平方メートル。

トピックス①

貨物需要開拓へ協力体制整備
長崎空港

長崎空港における航空貨物需要開拓に向けた取り組みが開始された。4月24日に「航空貨物分野における官民連携プラットフォーム」（事務局＝長崎空港ビルディング、長崎国際航空貨物ターミナル）が発足した。荷主やフォワーダー、運送事業者、航空会社、経済団体、行政（オブザーバー）、空港関係者が多角的な視点から、協力体制を確立。航空貨物の利用促進に向けた実効性のある施策の検討・実行を推進する。

長崎空港では、かつては鮮魚や造船関連部品などの輸送が行われていたが、現在は輸出貨物を中心に取り扱いが減少している。輸出貨物の取り扱いに向けた環境整備をはじめ、地域経済を支える航空物流機能を確保・充実させるために関係者が一体となって施策を検討。「貨物量」「輸送能力」といった観点のもとで、短期・中長期の拡大策・目標を設定して実行する。

九州には半導体製造装置関連産業の進出も進んでいるほか、長崎空港は、これまでにも生鮮貨物をはじめ輸出実績がある。事業機会をつかむための具体策、連携のあり方などを検証する。9月11日には第3回会合が開催された。

長崎空港は国管理空港で、滑走路は3000メートル。開港は1975年で世界初の海上空港。航空貨物ターミナルを運営する長崎国際航空貨物ターミナルはNIACTの愛称で知られる。事務所や保税装置場、荷捌き施設の管理・賃貸、国際・国内航空貨物の荷役・保管などを手掛けている。貨物地区の総敷地面積は1万8513平方メートル。



長崎空港全景



長崎国際航空貨物ターミナル（NIACT）外観

講　演

先進事例を学び、長崎における航空貨物利用促進のための知見・ヒントを得るため
下記のとおり講演を実施します

北九州市
港湾空港局　空港企画部　空港企画課長

今村（いまむら）　優（まさる）　氏

「北九州空港の物流拠点化について」
～開港２０周年を迎えた、現在地と今後の展望～

■概要

1901年の官営八幡製鐵所の操業以来、北九州市は「鉄の街」として発展してきました。現在も製造業の割合が非常に高く、長年培われてきた「ものづくりの街」としてのDNAを生かしながら産業のさらなる発展や新たな価値の創出に取り組んでいます。

こうした中、開港から20周年を迎えた北九州空港。九州で唯一、24時間発着が可能な海上空港という強みを生かし、北九州市では、製造業を中心とした産業集積や地域の産業特性を背景に、物流拠点としての機能強化・拠点化に向けた取組を戦略的に進めています。

今回、北九州空港の開港20周年を契機に、これまでの取組を振り返りながら、物流拠点化に向けた現在地と今後のさらなる発展に向けた展望についてご紹介します。

講演資料については、関係者限りでのお取扱いにご協力をお願いいたします
また、講演中の録音・録画等はご遠慮ください

MEMO